兵庫県保険医協会
西宮 芦屋 支部ニュース

No. 367
2023・7・25

リスクマネジメント研究会「薬剤疫学と薬物療法リスクマネジメント」（感想文）

医療における適応と限界の理解を

西宮・芦屋支部は6月17日、協会会議室とオンラインでリスクマネジメント研究会「薬物疫学と薬物療法リスクマネジメント」を開催。京都大学名誉教授の福島雅典先生が講師を務め、55人（会場10人、Ｚｏｏｍ45人）が参加した。司会を務めた半田伸夫先生の感想文を掲載する。

福島雅典先生は名古屋大学をご卒業後、愛知県がんセンターで臨床医をされていた。その折にわが国で多用されていたクレスチンやピシバニールといった特殊な薬剤の使用に疑問を持った。その後有名なＭＳＤマニュアル（メルクマニュアル）の翻訳をされ、海外の知己を得たそうだ。日本独自の薬剤の話をすると、「ぜひネイチャーにその内容を報告してほしい」と言われ、先ほどの日本独自の抗がん剤の内容を報告した。

その後、薬剤の臨床治験を世界標準であるＧＣＰに準拠する活動に精力的に関わってこられた。その仕事の関係で京都大学に薬剤疫学講座を開設する際に教授として招聘された。

薬剤にはリスクとベネフィットがある。これらをどう科学的に評価し、正しい判断をするかは常に問われる命題である。ベネフィットを判断する治療効果とは何か、例えば抗がん剤で対象腫瘍の縮小や消失をエンドポイントとして、明らかに縮小効果があった。ただし、生命予後は偽薬と変わらない。この評価はどうだろうか。ましてその薬剤に致死的な副作用があった場合、ベネフィットはリスクを上回るのか（イレッサの例をとり説明された）。

特に新しい薬を使用する際にはその構造や薬剤動態、治験結果からまずリスクがどの程度あるのかを考えるべきである（メルクマニュアルに記載あり）と話された。

オンラインも併用して行われ、55人が参加した
講演後は質疑応答も行われた

福島雅典京都大学名誉教授が
薬物疫学とリスクマネジメントについて語った

またヒト硬膜製剤によるヤコブ病（人の狂牛病）の発症予測などから比較的早期に使用をやめることを政府に求めたことや、イレッサの間質性肺炎訴訟にも関係された。

現在はＣＯＶＩＤ－19のｍＲＮＡワクチンのリスク・ベネフィットを研究されていて、ｍＲＮＡワクチンは遺伝子治療ととらえるべきで、長い目で見てその副作用を観察する必要がある。また２０００人を超える死者や、副作用に苦しむ人に対して速やかな被害者救済認定や補償をする必要があるとのこと。

医療とは元来不確実なものであり、医療側は確率論で説明し、患者側は決定論で考え各々思考過程が異なる。そのために臨床的意思決定を支える科学、予測科学としての臨床医学が必要である。

医療におけるリスクマネジメントの核心は「医療における適応と限界を理解して、禁忌を絶対にしてはいけない」「すべきことをしない、してはいけないことをする。思いこみ、決めつけ、話を聞かない、言うべきことを言わないのは駄目であることを肝に銘ずる必要がある」とまとめられた。すばらしい講演であった。

【西宮市・半田医院　半田　伸夫】

世話人会だより

西宮・芦屋支部は6月23日（金）に西宮医療会館で世話人会を開催。５人が参加した。

【Ⅰ．最近の診療経験の交流】
・新型コロナ診療
・新型コロナワクチンについて、など

【Ⅱ．予定・企画】
①第15回被災地交流／物品・物産展（6・24）
②第43回支部総会記念市民公開講演会（10・21）

【Ⅲ．報告】
①リスクマネジメント研究会（6・17）「薬剤疫学と薬物療法リスクマネジメント」

【Ⅳ．協会・保団連行事】
①第55回総会（6・18）

＊世話人会の日程は毎月第4金曜日です。次回は8月25日（金）に予定しております。支部についてのご意見や企画案などをお寄せください。

発行　兵庫県保険医協会　西宮・芦屋支部
連絡先　〒662－0832
兵庫県西宮市甲風園一－一－五　法貴皮膚科内
兵庫県保険医協会　電話〇七八（三九三）一八〇一

広川内科クリニックで二胡のコンサート

親しみのある曲でなごやかな土曜日

7月1日、広川内科クリニック・芦原デイサービスセンター・女子生活支援センターで「夏のお昼の二胡の調べ」が開催された。中国・浙江省出身で現在静岡県を拠点に全国各地の文化施設で演奏を行っているほか、協会の被災地訪問活動にも協力した劉揚（りゅう やん）さんが演奏を行い、市民・患者さんなど23人が二胡の音色を楽しんだ。

二胡の演奏を行う劉揚氏

ドラマ「アルジャーノンに花束を」の主題歌としても有名な「The Rose」に始まり、坂本冬美の「また君に恋してる」、BIGINの「島唄」、宮崎駿監督「となりのトトロ」のテーマソングや同作のオープニングソング「さんぽ」など日本に住む市民に親しみのある曲が披露されたほか、中国でのヒットソング「女人花」も披露され、文化的な交流も楽しむことでできた。

広川先生が協会の活動や被災地訪問での経験について話した

劉揚さんは「心と心の会話」をキャッチフレーズにしており、参加者とユーモアを交えて掛け合うなど、会場は終始なごやかな時間が流れた。

当日は動画ＳＮＳ「TikTok」での生配信も行われ、劉揚さんのフォロワーもオンラインで視聴した。

公演後は広川恵一副支部長が、パネルを使って参加者に保険医協会の活動、５月に行われた被災地訪問で元京都大学原子炉実験所助教小出裕章氏に協力いただいた、各地での線量率測定値の結果などの報告を行った。

東日本大震災被災地交流　第15回被災地交流／物品・物産展

市民にとって被災地を身近に

西宮・芦屋支部は6月24日、広川内科クリニックで第15回被災地交流／物産・物品展を開催。多くの地域住民や患者などが参加・交流した。

この企画は東日本大震災と熊本地震被災地への支援と地域交流を目的に定期的に開催していたが、コロナ禍のため約3年ぶりの開催となった。岩手県宮古市「かけあしの会」が、わかめや塩サイダーなど東北の物産を販売したほか、5月に協会が行った被災地訪問パネルを展示。また、保険証廃止撤回署名、医療・介護負担増ストップ署名、上田進久先生にご用意いただいた阪神淡路大震災時のアスベスト被害に関わる展示など、協会が取り組んでいる活動についてもブースを設けて紹介し、市民に協会を知っていただく企画にもなった。

会場には会員の先生方をはじめ、これまで以上の多くの地域住民や患者が訪れ、交流を深めあいながら、思い思いに買い物を楽しみ、大いににぎわった。

「かけあしの会」が東北の物産を販売した

会場にはたくさんの市民らが集まった

西宮・芦屋支部 第45回総会記念市民公開講演会のお知らせ

日　時　10月21日(土)14時30分～

会　場　夙川公民館講堂

講　師　東京大学定量生命科学研究所　**小林 武彦** 教授

テーマ　「生物はなぜ老い、そして死ぬのか」

お問い合わせは078-393-1840 協会事務局 伊地知・山田まで